2006 年度

中国における自閉症スペクトラム児の発達支援に関する研究

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
張　鋭

中国では，自閉症スペクトラム児に対する医学，心理，教育，福祉などそれぞれの分野における支援システム・制度は確立の途上である。多くの親は子どもの療育・教育や将来に大きな不安や悩みを抱えている。本研究は，中国における自閉症スペクトラム児の発達援助の実態に注目し，科学的な根拠と妥当性を持った早期発見・早期療育のシステムの構築の可能性について検討した。

研究 1 では上海の民間自閉症教育施設と蘇州にある培智学校(日本の養護学校にあたる)において自閉症スペクトラム児を持つ 35 名の保護者に，対象児の妊娠中や周産期の生育歴・乳幼児の発達および調査対象児の発達ニーズについてアンケート調査を実施した。その結果，妊娠中や周産期の異常率が高く，特に切迫流産と帝王切開や巨大児の項目は，いずれも最も多いことが示された。次に 調査対象児の前言語機能の獲得の遅れや高い発達的退行の発生率などの乳幼児期における早期的徴候と発達像が示された。約 8 割の保護者が 3 歳までにも子どもの異常に気づいたが，診断までの間隔が長く早期療育が遅れる実態があることを明らかにした。また，公的教育の場が保障されず民間教育施設に依存している現状や，公的な福祉制度が立法化されていないことが現実として示された。

研究 2 では，上海の民間自閉症教育施設において 16 名の自閉症スペクトラム児を対象に,中国版 K 式発達検査を実施した，発達検査の結果により,4 つのグループに分けた。その中の 1 つ(グループ 2:1 次元可逆操作期)において,生活年齢と発達年齢のずれが多きい対象児は,発達上の課題が大きいという特徴が見出された。

以上の結果を踏まえ，中国における自閉症スペクトラム児の発達支援には，次の三つの課題があることを指摘した。第一は，医療機関・心理専門家や社区（コミニティ）の母子保健部門が連携しての妊婦健康や育児知識の普及，簡易な乳児用の精神発達のスクリーニング検査の標準化，乳児期健診制度の完備などをおこなうことである。早期発見の鍵といえる。早期発見後に間隔をあけずに早期療育につなぐなど援助の見通しを保護者に提示することは、発達支援システムへの構築には最も重要な課題である。第二は，特殊公的教育機関や民間教育機関における大規模な実態調査を行うことが必要な課題である。子ども・親・教師のニーズを把握して，自閉症スペクトラム児の教育システムを作り出すことが大切である。第三は，専門家や医療関係者・教育者が連携し，一人ひとりに対して長期的・系統的に追跡し研究を行うことが長期的な課題である。最終的には自国の文化に適した自閉症スペクトラム児の教育プログラムを作り出すこと,生涯にわたる一貫性を持った科学的な発達支援システムの作り上げることが目標となる。